

センチネル 32J と SPARC Enterprise T2000 / M4000 との 接続検証結果報告書

株式会社 昌新
技術部

1. 作業実施概要

Thinklogical社のシリアルコンソールサーバー『センチネル 32J』と SPARC Enterprise T2000 (Solaris (TM) 10 SunOS Release 5.10 Version Generic_125100-10 64-bit) および SPARC Enterprise M4000 (Solaris (TM) 10 SunOS Release 5.10 Version Generic_125100-10 64-bitss) との接続・動作確認を実施致しました。

1) 被検証装置

品名	型名	ファームウェア
センチネル 32J	SCS-003200J	3.2-61J



Thinklogical Sentinel Console Server

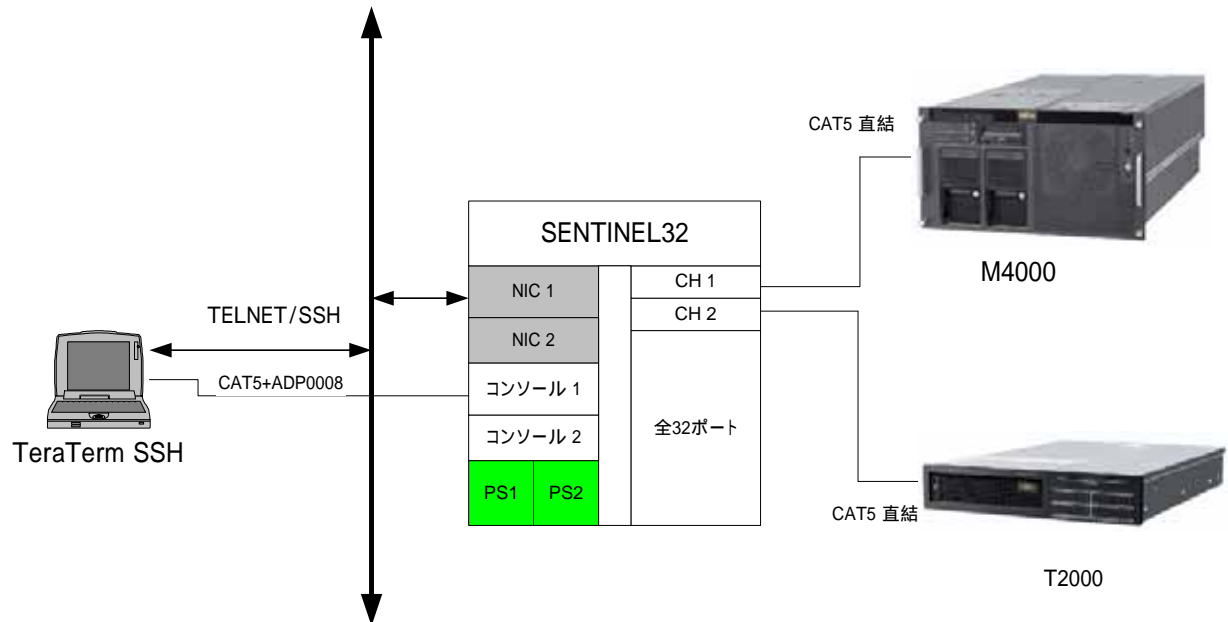
1. 作業期間

2007年8月8日 14:00 ~ 16:30

2. 作業場所

Platform Solution Center 29F 5A 検証室

3. 実施システム構成 (概要)



- 1) SPARC Enterprise T2000
(Solaris (TM) 10 OS Release 5.10) NIC: オンボード
- 2) SPARC Enterprise M4000
(Solaris (TM) 10 OS Release 5.10) NIC: オンボード
- 3) センチネル 32J (M/N: SCS-003200J) ファームウェア V 3.2-6IJ
- 4) スイッチングハブ 100/1000BASE-T インタフェース

4. 検証項目

- 1) TeraTerm を実行する Windows PC からシリアル, telnet および SSH によりコンソールサーバー『センチネル 32J』に接続できること
- 2) SPARC Enterprise T2000 の管理コンソールと Solaris のシリアルコンソール操作を支障無く行えること
- 3) SPARC Enterprise M4000 の管理コンソールと Solaris のシリアルコンソール操作を支障無く行えること
- 4) 『センチネル 32J』の電源切った時に T2000 および M4000 の Solaris が停止しないこと .
- 5) SPARC Enterprise T2000 および M4000 がパニック(意図的にクラッシュを発生させて対応)を起こしても, センチネル 32J に影響がないこと .

5. 検証結果

上記検証項目において, SPARC Enterprise T2000/ Solaris 10 Release 5.10 および SPARC Enterprise M4000/ Solaris 10 Release 5.10 のいずれも, コンソールサーバー『センチネル 32J』からコンソール操作を実施できることを確認いたしました .

- 1) SPARC Enterprise T2000 管理コンソールでの ALOM CMT とコンソールの切り替えは、シェルプロンプト (sc>) から sc> console を入力し、console に、ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) に戻るには #> #. を入力することによりおこなわれました。
- 2) SPARC Enterprise M4000 の管理コンソールでの XSCF とコンソールの切り替えは、シェルプロンプト (XSCF >) から XSCF> console -d 0 を入力して、console に XSCF に戻るには #> #. を入力することによりおこなわれました。

6. お問い合わせ先

株式会社昌新
情報システム営業部 (担当 : 浅利)
TEL : 03-3270-5926
E-mail: IS@shoshin.co.jp
URL: <http://www.shoshin.co.jp/c/lsci/scs/>

以上